

第1回「富山県地域交通活性化推進会議」での意見等について

日時:平成29年1月23日(月)

13時30分～15時00分

場所:富山県民会館304号室

○公共交通の現状について

- ・課題はたくさんある。県民、市民の目線からみて本当にどうなのかしっかりみていく。
- ・1時間に2本しかないバス路線なのに20分も遅れたことがあった。本数が少ないいうえに、定時性も確保されていない。
- ・バスの定時運行の確保に努力しているが、降雪や道路環境によって遅れることがある。調査をしながら実態を把握し、引き続き改善に努める。
- ・ダイヤについては、新幹線に接続させるよう努力しているが、域間交通のボリュームが圧倒的。観光客より地元利用者のウエイトが高く、需要が多いところへの配慮が大事。
- ・交通機関同士のダイヤの連携が大事だが、北陸新幹線とあいの風鉄道、富山地方鉄道との接続がうまく行っていない。
- ・乗客が乗っていないバスの運行に補助金を支出していることについて、実態を把握し、県民、市民に説明できるかを踏まえ、しっかりと検討していく必要がある。

○交通機関の利便性について

- ・免許の自主返納の問題がある。市町村では、自主返納者に数回分のタクシーチケットなどを配ったりしているが、買い物は毎日のことであり、荷物も重く、車はなかなか手放せない。
- ・交通の利便性向上は難しいが、利便性が高まれば、免許を返納し、公共交通を利用しようとなるのではないかな。
- ・高齢者になれば大きな荷物を持って移動することが大変。階段じゃなく乗り降りできるとか、買ったものがすぐ送れるとか優しい環境になればいい。そうなれば、公共交通を使える。
- ・大学生アンケートの中でも公共交通の便利さを求める声が、特に女性の方が公共交通が不便であるとの意見が多い。
- ・コミュニティバスを運行しているが、4つの拠点（保健センター、総合病院、ショッピングセンター、駅）を必ず通るルートを設定している。それで利用が増えている。
- ・ライトレールが証明しているとおりの、本数が増えて利便性が高まれば利用客も増える。域間交通では交通機関相互の接続が大事。
- ・バスは定時性の確保が難しいため、バスがどの位置にいるか調べられるような交通情報提供のインフラ整備を進めてもらえたらと考えている。
- ・駅のバリアフリー化について多額の経費がかかるとのことだが、高齢者やベビーカーの移動など子育て世帯の視点からもエレベーターの設置が必要だと感じている。

○持続可能な地域交通について

- ・ いろいろな観点から見直しを行い、効率性と利便性向上は相反するが、実行は可能でないか。
- ・ バス路線維持のため、域内交通に関して見直しを行いながら、交通事業者とともに補助金を活用し、市民の足の確保をなんとかやっている。
- ・ シビルミニマムとしてどこまでサービスを提供するのか。利用しやすくしないと使ってもらえないし、コストをかければ利便性はあがるが持続可能にはならない。バランスが大事。
- ・ デマンドとして地域タクシーに助成するなど地域のための地域交通をつくり、長く使えるような仕組みに取り組んでいる。このような仕組みが広まり、使ってもらえるものになればいい。
- ・ すべてのバスが小中学校のスクールバスと兼ねており、路線によっては、大型バスが走っている路線もあり、コストも高くついている。
- ・ 観光の事業で大型のバスの代わりにタクシーで回るとすると予算を削減できた。路線バスでも2～3人しか乗っていないバスがある。大型バスにこだわる必要はない。
- ・ 税金を投入している以上、工夫が必要であり、小委員会で議論してほしい。乗車率が低い路線はバスを小型化するための初期投資に補助する。また、乗車率が高い路線にはインセンティブとして補助率を高めるなど。きちんとデータを出して、議論してほしい。
- ・ バス事業者は、もはやバス事業だけで収入を確保することが難しく、事業の多角化が必要。これからはサービス業の分野に参入することも考えるべき。例えば、宅配便の受付など。

○乗継利便性について

- ・ 今春のダイヤ改正で、定期利用を増やすため、増便・増発に努める。また、定期外を増やすため、乗継ぎに重点化することの2つの視点でダイヤ改正を行う。
- ・ ダイヤの調整は列車同士も大事だが、列車とバスの乗り継ぎも大事。市町村にもなるべく早く情報を出すので、コミュニティバスとの調整を図っていただきたい。
- ・ 鉄道との乗継ぎ考慮したダイヤもあるが、バスだけで設定を考える必要があるダイヤもある。通勤・通学のダイヤについては、できるかぎり鉄道との接続を考慮していく。
- ・ 普段自動車を運転しており、公共交通はあまり利用しない。病院に行くのに車だと10分で着くが、市営バスを乗り継いで病院に行ってみると、1時間40分かかった。現実には難しい。